

2025・26 年度

第 4 回・ラーニング委員会・議事録

開催日時 2025・9・18・木曜日 18 時～ 開催場所・白鳥会員宅

出席○遅刻△欠席×

委員長 福原 義一(○)副委員長 篠田 美幸(○)

委員 三木 敏靖(×)白鳥 政孝(○) 赤星 健二(×) 万崎 英正(○)

宮坂 大雄(×)小泉 秀俊(×) 石橋 孝 (×) 山崎 克哉(○)

山本 正樹(×)高木 祐司(×) 石川 晋平(×) 夏井宏一郎(×)

佐藤 浩之(×)

オブザーバー

会長 宮武 淳(○)幹事 檜垣 昌宏(○)

委員長挨拶

白鳥会員に講師として 1 時間以内でお願いしています、終了後は久遠での懇親会です、どうぞよろしく願いいたします。

議題

1 白鳥会員より

米山梅吉翁について講和

内容は別紙

次回委員会開催日 未定

米山梅吉翁について

(財)ロータリー米山奨学会

日本のロータリーの創設者である米山梅吉翁の偉業を記念して1952年、東京ロータリー・クラブが奨学事業を呼びかけて「米山基金」を募り、1954年奨学生第1号となる奨学生がタイ国から来日しています。資金は日本のロータリアンからの寄付金を財源として、事業は62年におよんでいます。

今は、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会となり、年間の事業費は、14.6億円で奨学生の採用数は約750人を採用し、累計で1万9,197人(2016年4月現在)の奨学生を支援しています。その出身国は世界119カ国とその地域に及んでいます。日本最大の民間奨学事業となっています。この奨学事業は、奨学金の支援だけでなく、世話クラブによる交流とカウンセラー制度による精神的なバックアップを重視していることに特徴があり、国際理解と交流に大きな効果を上げています。

クラブ単独事業として始まったこの事業は、5年で世界に類をみない日本ロータリー独自の多地区合同奉仕活動となっています。2007年には日本全地区によるロータリーの多地区合同奉仕活動となる。

生い立ち

1867年11月9日 大政奉還 徳川15代将軍慶喜が政権を朝廷に返上

1867年11月15日 坂本龍馬暗殺される

1868年(明治元年) 東京芝田村町に生まれる。

夏目金之助、秋山真之、ポールハリス、正岡子規、

父は和田竹造(大和藩士)、母は静岡三島大社の神官の娘うたの3男。梅吉4歳の時父竹造死去のため母方の郷里三島に移り住む。

7歳、神童といわれた英才、「映雪舎」という塾のような小学校に入る。兄和田栄次郎が教師をしていた。

1879年 11歳 旧家で名主の米山家の一人娘のはる(春子)養子に望まれる。

1881年 13歳: 沼津東高校の前身沼津中学校入学 8キロを通学。

第一の師; 江原素六(麻布中学の創立者)に出会い詩や文の才能を磨く、

1882年 15歳、卒業前に米山家に無断で友人の助けにより、上京。苦学、銀座江南学校に入る

1884年 17歳、東京府の官吏試験に合格し、生母と同居。東京英和学校にて英語を学び渡米の準備をする。歴史、文学、詩、和歌、俳句、新聞記者志望

渡米

1887年 20歳、米山家に正式に入籍し、米山と名乗り渡米する。サンフランシスコの福音会に寄宿。

キリスト教伝道師の後の青山学院長の第二の師; 本田庸一に出会う。

米山梅吉翁は直情径行の人、周囲を気にせず、自分の思った通り行動する人。

巧遅、拙速(巧みなれども遅し、拙なけれども速し) 功を急がないようにと諫めた。一生の座右の銘とする。

歌舞伎俳優の幸四郎と間違えられたほどの美形、生涯信仰に道に入らない。政治、文学

などの一般科目を学び、渡米8年にしてアメリカの知識を持った堂々たる日本の紳士として1895年帰国

1896年 29歳、養家の春子と結婚。「提督彼理」を著す。日本人としてアメリカを書いた著書。勝海舟(1823~1899 明治32年)に師事。日本鉄道会社に就職

三井銀行時代

1897年 30歳、三井銀行に入社、アメリカの大学卒、演説上手、英語は自在、容姿端麗、話し方の旨さなどで順調な出世、欧米の銀行業務視察1年間、勝海舟の口添えで秘書官(政治家への道)の誘いを断る。

1909年 42歳 常務取締役就任、財界・銀行業務での活躍際立つ

1914年 大正3年 47歳 「新隠居論」を上梓、米山翁の奉仕論、「西洋の隠居は引退することではなく隠居してなすべき仕事を見つけ出し、社会のために奉仕することがなくては人間としての義務を果たしえない。事業に成功して目途がついたら後進に道を譲って報恩・社会奉仕の方法を探しなさい」 言行一致の人。

1920年 53歳 東京ロータリー・クラブ設立し会長となる。

1921年 54歳 長男東一郎(20歳)逝去。 1926年 59歳 次男駿二(21歳)逝去

1921年 55歳 三井銀行常務取締役を辞す取締役。三井信託株式会社を創立準備に入る

1922年 関東大震災 1923.9.1

1923年 57歳 三井信託株式会社設立 66歳まで社長を務める。資本金3千万円

三井報恩会

1934年 66歳 三井銀行取締役・三井信託(株)社長辞任 三井報恩会(1934)設立し、三井財閥3千万円出資、1,000億円に相当。社会・文化事業に貢献する目的 理事長に就任

- ① 医療・福祉関係 ライ、ガン、結核など養老院や医療機器の寄付、養護施設、保護施設への補助
- ② 農村振興事業 農村の文化健全娯楽助成、羊の輸入、疲弊した農家を復興させる
- ③ 学術研究、研究団体助成が多い、

戦前のロータリークラブ終焉

1940年 73歳 9月11日 東京ロータリー・クラブ解散やむなしと決議した。水曜会

1945年 9月入院 11月退院 長泉村下土狩に帰る

1946年 4月28日 享年78歳3ヶ月逝去 翌年ポールハリス逝去

ロータリー・クラブの復帰と米山記念奨学会の設立

1949年 日本ロータリー国際ロータリーに復帰

1952年 東京ロータリー・クラブ奨学事業の構想を立案、設立趣意書 翌年募金を開始、54年ソムチャード君来日

米山梅吉翁の教育奉仕(個人)

青山学院 恩師本多庸一への報恩、長男東一郎の記念館柔剣道上の寄付、昭和12年青山学院の初等科(緑岡小学校)の創立、全額私財、経営方針など一切を仕切る。学校後援会、保護者会など認めない。

立教大学 画家を目指していた次男駿二の他界の7年後に心理学実験室を寄贈

郷里長泉町 昭和6年 図書館と蔵書1000冊寄贈 当時6230円

“Service, Not Self”の人であった。 “Service Above Self”